

「英語ワークショップ」4年目の報告

太 田 洋*, 井 戸 桂 子*, 杉長ジャッキー*

English Workshop Class” Progress Report 2013.

Hiroshi OTA*, Keiko IDO*, Jackie SUGINAGA*

Abstract

This paper reports the progress of the 1st and 2nd year of the English Workshop class at Komazawa Women's University from 2012 to the present. In this report there are three main elements: An overview of the structure of the Workshop class; an update on the implementation of two new developments, namely a new social network for language learning; and the introduction of debate on topical issues.

Reflections of the aforementioned features will be discussed in relation to all three English Workshop classes held in each semester for the first year and second year students. The first will discuss using debate in class. Some strategies necessary for debate were taught and students had to research their debate topics at home. Secondly, a new element using the social network media Edmodo was introduced. One significant development of using this online platform was the shift from a two-way interaction between teacher and student to a more collaborative communication amongst students and also the teacher.

The report finishes with an interview with a third year student who had previously taken the English Workshop class for two consecutive years. It reveals how she was able to transfer the skills she learned during this time and transform herself from being a passive learner to a more active and autonomous one.

- 1 「英語ワークショップ」について
- 2 平成24年度後期 1年生クラス 2年生クラスの実際
- 3 平成25年度前期 1年生クラス 2年生クラスの実際
- 4 Using Technology as a Tool for Language Learning
- 5 2年間履修した学生へのインタビューによる検証
- 6 まとめ

*人文学部 国際文化学科

1 「英語ワークショップ」について

平成22年度に開講された「英語ワークショップ」(ⅡⅢⅣ)(1年生2年生対象)は、本年平成25年度で4年目を迎えた。人文学部国際文化学科の英語コミュニケーションコースの選択科目として、着実に展開している。しかし、根幹の部分は当初から揺るがない。

すなわち、1)「個別指導(tutorial)を受けて自分にあった学習法を習得する」という目的、2)日本人教員一人につき学生8名という「少人数制」、3)授業内の核となる学習は「ネイティブ教員との指導の入った会話(これはICレコーダーで記録する)・日本人教員との個別指導・自学」であること、4)授業外の学習は「Learning Diary への日記執筆・多読・自学の記録」であること。これらの方針は当初と基本的に変わらない。

参考までに、以下に本年度のシラバスを引用する。

この授業は、担当教員との話し合いを通して、各学生は英語学習の目的、その目的を達成する学習法を決め、教員の援助のもと学習を行う個別英語学習プログラムである。ネイティブ教員との会話、自分のことを英語で話し書く、興味のあるものを多読する、日記を書く、興味のあるものについてのリスニングなど、多岐にわたる英語学習方法から、自分にあったものを選び、学習を進めていき、英語力をつけることを目的とする。

また、各週の学習の不足箇所と改善方法を記録し、次週の学習の目的を書くという、「振り返り」もより徹底させている。さらに、ネイティブ教員との会話において、レコーダーで会話を聞きなおすことによって「自分にとって役に立つ表現(useful expressions)」を探し出すことも常となり、昨年度

からはこの表現をEdmodo(次項参照)を通じてクラスの教員と友人間で共有するという発展もみられる。駒沢女子大学独自の取り組みである「自前教科書」(テキスト)も3版目を作成し、改定を続けている。

基本的な方針は変更しないが、年度を重ねるごとに、学生がより効果的に学べるように展開している。4年目の報告と検証を以下に述べていきたい。

2 平成24年度後期 1年生クラス 2年生クラスの実際

1年生後期クラス「英語ワークショップⅡ」は、後期に於いても履修希望者が多く抽選となり、日本人教員が2名なので、定員通り16名を履修者とした。今回のクラスは後期からの新メンバーも入り、活気が見られた。ことに、2年生での「6か月海外留学プログラム」を目指す学生が数名いて、良い刺激となった。学習動機が、1年生の当初の「とにかく英語が話せるようになりたい」から、「英語を身につけて留学したい」へと高められたので、目的が明確になり、意欲も増していった。すると、留学までは意識しない学生も、頑張っている学生を見て、自分も上達したいと願い、モチベーションがクラス全体として高いものとなる効果が見られた。そして少しずつでも継続して学習する、いつも英語に触れているように心がけるという勉強態度が備わって来た。

問題点としては、会話での履修者間のレベル差がある場合の発言機会の均等化である。ことに、後期からの参加者は、継続者の積極性を前に、となく聞き手にまわってしまう傾向が学期当初みられた。ネイティブ教員だけでなく継続者も、質問を新規参加者に問いかけるなど、互いの助け合いもあり、第5週目くらいから解消された。また、会話での質問を促すために、授業でもペアでのウォーミングアップとして、たがいに質問をし合う練習をした。たとえば“I went to Shinjuku.”という文章を一人が言う

と、ペアの学生は5W1Hの質問を、2分以内に出来るだけたくさんして（ただし答えは短い形で）進めるのである。こうした試みも、新規参加者の発言を促すのに効果があった。

2年生後期クラス「英語ワークショップⅣ」は、日本人教員が1名なので、定員が8名であるが、後期には9名の希望があったので、全員履修とした。「6か月海外留学」に4名がオーストラリア等の外国へ出発したため、モチベーションの点がどうかと心配したが、それは杞憂であった。留学に行かなくとも、大学で英語の上達を強く望んでいたのである。ことに「英語ワークショップ」は2年生で終了するので、最終学期として集中する学生もいた。

そこで、少人数制を生かし、英語発言の機会を増やすように、工夫した。ことに、debate やスピーチに続くdiscussionをほぼ毎週、行った。テーマは前の週に履修者で話し合って決めたり、ネイティブ教員から提案がなされたりした。例えば、「結婚しても仕事を継続するか否か」「将来母親になった時、働き続けるか、家庭に入るか」「喫煙についてどう思うか」「小学生の携帯電話の是非」といった現代のテーマが多かった。履修者は漠然と授業に臨むのではなく、前の週の宿題としてこれらのテーマを調べ、問題点をそれぞれ考え、話し合いでの発言を用意してくるのである。「英語ワークショップ」の4学期目を履修する学生ならば、こうしたテーマについても、かなり発言が出来る力をつけていた。（なお、本論文の最後にて、本授業を4学期間学び続けた学生への効果検証をおこなう。）

ただし問題点は、専門用語の語彙力をいかにつけるかである。たとえば上記の討論を行う時も、自分の考えを述べるときは単語をつなげることが出来ても、質問されて、新たな答えを導き出そうとすると、語彙が不足する。日常の話題ならこなせても、上記のテーマのように「労働条件、健康、教育」を扱うとき、専門用語は不足する。やはり、時事英

語を読み、BBC や CNN をインターネットで渉猟し、その都度、単語を増やしていく必要がある。個別指導に於いても、学生のレベルに応じて、単語力の向上について指導した。

一方、第4学期目となれば、日記の書き方にも工夫が見られた。いわゆる日常の記録にとどまらず、ニュースを聞いての感想、家族友人等の人物描写、討論テーマについての小論、など、様々な記述を個人のレベルに応じて始めていた。まさに、自学を身につけ始めた証拠である。この過程を経てこそ、3年生になって「英語ワークショップ」の授業を離れても、自分で英語学習が進められるのである。2年生の1月の最終授業は、教員も学生も卒業式のような充実感があるのも、この授業の良さであろう。

3 平成 25 年度前期 1 年生クラス 2 年生クラスの実際

平成 25 年度を迎え、「英語ワークショップ」は開講4年目に入った。4月の新入生に本授業について何か聞いたことがあるか尋ねたところ、オープンキャンパスやホームページで情報を得たという新入生が数名いた。高校生の時から本授業を楽しみにしていたとのことで、期待にこたえるべく一層の責任と努力の必要を痛感した。

さて、「英語ワークショップⅠ」は、履修希望者を抽選で断ることが、開講初年度以来続いていた。そこで、今年度から、2クラス開講とした。すなわち、従来の「木曜2限定員16名クラス」に加えて、「金曜1限定員8名クラス」を増設した。その結果、木曜クラスは若干抽選となったが、金曜クラスは1時間目ということもあり、定員ちょうどであった。

初めの数週間は例年のように、核となる学習（すなわちネイティブ教員との録音つきの会話、日本人教員とのチュートリアル、自学）を軌道に乗せるよう指導した。ただし、金曜クラスは8名であるため、ネイティブ教員との会話の時間もゆとりを持って多めに配分出来たので、非常に順調に進んだ。

2 年生前期のクラス「英語ワークショップⅢ」は、定員が 8 名なので、やはり抽選となり、1 年次から継続履修出来た学生は、「抽選に漏れた友人の分も頑張らないといけない」と言って気を引き締めて続けていた。なお、2 年生は英語コミュニケーションコース限定の専門科目となるので、英語への関心がより高い学生が履修し、真面目に取り組む姿が見られた。2 年次になったので、debate も試み始めた。あるテーマ（例えば "City life vs Country life"）のもとに、2 グループに分かれて、順番に討論する。いくつかの基本となる表現をネイティブ教員が教え、それを使いながら、相手の意見にいかに関論していくか、戦略を練りながら試みた。発言の往復はゆっくりのペースであったが、debate 自体が初めての経験の学生もあり、興味深い展開となった。

問題点は、1 年生が、時には 2 年生も、会話の時に「行き詰まる」ことである。何か話題を出しても、それが続いたり、発展したりしないことが往々にある。そこで、今年の前期は、The Internet TESL Journal の Questions にアクセスすることを宿題とした。好きなテーマ（例えば Food & Eating）を選び、その質問（例えば Do you always eat dinner with your family? Are you a good cook?）を複数ピックアップし、答えも考えて、それらを learning diary（学習ノート）に書いて来ることとした。そしてこれらの応答がノートを見なくてもできるように自宅での声だしの練習（本授業では「一人スピーキング」と呼んでいる）を勧めた。その結果、学生での差はあるものの、テーマ提供と質問応答が以前よりも多くなされ、潤滑に話題が展開するようになった。

以上が 24 年度後期と 25 年度前期の 1 年生 2 年生クラスの実際、ならびに問題点の検証である。次に、《Edmodo》により、一週間継続して表現力と語彙力を高めて行く試みを、報告検証したい。

授業での「会話」を録音し、聞き直しながら振り返り、その中から選んだ「自分にとっての役に立つ表現（useful expressions）」を、授業後 3 日以内に《Edmodo》に送信し、ネイティブ教員だけでなく授業の友人とも交信しあうというものである。昨年度から始めたが、24 年後期、25 年前期で、さらに発展している。

4 Using Technology as a Tool for Language Learning

Technology and the power of social media have become essential tools in language teaching and learning. Edmodo is one such social media application which acts as a complimentary learning platform. Increasingly popular among language teachers and educators, Edmodo is similar to the social network system Facebook. However, it differs in that it is generally not open to the public. This intranet-like aspect of Edmodo makes students feel more secure when posting messages. It is also a useful tool to enhance interaction not only among students, but also between teachers and students. It facilitates communication in the form of messages, notes, assignments and reminders. Similarly, students are able to stay connected by reading each other's posts and replying to one another.

In the English Workshop students and teachers use Edmodo as a tool for after class learning and interaction. During class the main focus of the workshop is communication in English in small groups. This allows more attention to be given to individual students while they collectively exchange ideas and opinions and negotiate meaning. In the

group talk sessions all students record the conversation using a voice recorder or their smart phones. Students can then listen to the recording multiple times and simultaneously take notes about new or useful words, phrases or chunks of language that they have learned during the group conversation. In addition, they are encouraged to add new phrases learned, for example, from books, magazines, and the internet.

Last year, Edmodo was a new feature of the class, and communication was mainly between teacher and student. However, this year we encouraged the students to open up to each other and reply to at least three other student's posts. Now, all messages are shared amongst all students within one class (or among other classes) which also provides an opportunity for each student to read about what other groups talked about. This way, students are recycling their recently acquired language and learning more at the same time.

The following is an example of a post from one of the first year students:

STUDENT A:Thursday Workshop 2a (1st year sts)

Good evening, Jackie and everyone.
Yesterday I ate TAKOYAKI with NAOYA ♡
♡

Those looks were nice and so delicious.
That was wonderful days for me.

Here are my useful sentences.

- 1.I cooked somethings for my mother.
- 2.She was panicking.
- 3.I don't get burned.
- 4.Just from the gas.

- 5.He laughed a lot of.
- 6.When I was cooking I burned my hair.
- 7.I and my brother's age are big diffirent.
- 8.I'm disappointed.
- 9.That's the same.

I think I will stick it out in the latter period.
I'll do my best!
(Student A)

STUDENT B:said Oct^{6th} Thursday Workshop
2a (1st year sts)

That's good!
I also like takoyaki! It's very delicious!

STUDENT C: October^{6th}
I'm looking forward to a takoyaki party on
October 21st!
(Student C) .

TEACHER: Jackie said October 7
Hi (Student A) ,
I hope you had a great time eating takoyaki
with your friend. I'm sure it was yummy!
Thank you for your phrases. I hope you will
re-use them in class.
Have a nice day!
Jackie

p.s. Here are some corrections:

- They looked nice and were so delicious.
It was a wonderful day for me.
Or you can say: I really enjoyed myself.
1. I cooked something for my mother.
 2. I didn't get burned.
 3. There is a big age difference between me
and my brother.

In a one-to-one interview, the students

were asked if there were any advantages or disadvantages to communicating with other students using Edmodo. To follow are some of their replies:

Student A: I can learn new things from [my] classmate[s] and Jackie.

Student B: I [can] communicate with everyone in my class. We [can] become friends.
And for the latter, one person replied:

Student C: Sometimes I make a mistake. I feel ashamed [embarrassed].

Notwithstanding that there are some disadvantages to students reading other students posts, such as acquiring other students mistakes, the positive contributions to the learning situation outweigh they negative. Furthermore, due to the fact that one teacher will always monitor student's errors or mistakes, all students are advised to continuously read the teacher notes. Students' are also encouraged to test their hypothesis (experiment with new language) they have learned and not be afraid to make mistakes as this is a natural part of the learning process. Making mistakes can also provide an opportunity for others to learn from. Of course, it is not necessary to correct every single mistake, and there may be times when it is more advantageous to explain some things face-to-face. Nevertheless, Edmodo serves as a secure and practical platform where learning can be shared, communication enhanced, and relationships can be built up

within the class.

Besides being a communicative tool for groups of students in one class or between classes, three other interesting ways to utilize Edmodo are: (1) Use the polling feature. You can make mini surveys for each class and put a poll to the class for students to think about and respond to a question, preferably with reasons and opinions. For example you could ask grammar related question. Students could focus on the tense of language and respond to a question like: 'What is the difference between 'I have just been to the shopping centre.' and 'I just went to the shopping centre.' Or the question could be more reflective in nature: 'How do you think good language learners learn English?' Polls might also be used to ask students questions about their homework, a book they are reading or about the content they are learning in class. (2) Quizzes are another useful feature of Edmodo. They can be used as summative and formative means of assessment which can be made using a variety of question types that are part of the program. These include true/false, multiple choice, and short answers. In addition, results can be accessed in the Gradebook function of Edmodo and they can also be stored in the Library facility. (3) Interactive assignments. These can be given to students requesting them to do some research about something or a complete a survey amongst peers. For example students could make a report about their favourite music, artist or presenter and upload a video or audio file to accompany their writing. When one person in the class posts a message

or assignment on Edmodo, the other students and teacher can instantly see the message and respond. This adds an extra dimension to the limited two way communication between one teacher and one student and instead promotes more social interaction and learning amongst peers. In next year's English workshop class it is hoped that the three aforementioned additional activities will be tried and tested.

5 2年間履修した学生へのインタビューによる検証

1～4で述べた英語ワークショップの授業を受けた学生は、どのような力をつけたのであろうか。

今年度は2年間英語ワークショップを履修した学生に、昨年度と同じ質問項目でアンケートに自由記述で答えてもらった。学生の記述内容を原文のまま載せることで効果を示したい。

1. 2年間履修して学んだこと。

自分に合った勉強法です。大学に入学する前の私の英語学習と言えば、全く楽しくない受験のためのものでした。常に受け身で山のような問題集の文法問題を解き、単語を丸暗記するだけでした。小さい頃から、英語が好きで学んできたつもりでしたが、そのような学習をしていたために、英語を学ぶのが苦しくなっていた程でした。

そんな私の英語に対する感情を再びポジティブなものに変えてくれたのが英語ワークショップで出会った学習法でした。自分のレベルに合った本を読む多読を始めとして、自分の興味分野に関するエッセイの作文、丸暗記ではなく文と共に単語を記憶する等、多くの学習方法を教えていただきました。それらを試行錯誤し徐々に自分に最も適した勉強方法を探していきました。その過程で、毎週先生方とのチュートリアル中に反省点や改善方法について指摘して頂いたのも大きな力になったと思っています。

2年間を通して、紆余曲折しましたが、多くの感情や状態を通して、自分に合った学習方法を身に付けることができたことは、私にとって最大の学びです。

2. 英語学習や学習方法等で変わった点

最も大きな点としては、自分で自分の学習内容を決め、それを遂行する。そして遂行できたかを自分自身で判断し、自己管理するという点です。ワークショップを履修する以前の私は、自分に合っているかどうか分からない、苦痛な勉強方法を常に受け身で行っていました。

ワークショップを通して、受け身の状態から抜け出し、自己管理を行うことの大切さに気づきました。そのことに気づいた後は、自分の英語に対する気持ちや掲げた目標に背を向けることなく、英語学習に対してこれまで以上に真摯に取り組むことができるようになりました。

3. 今、英語学習は何をしているか

現在は2年間のワークショップで学んだことを基に導き出した自分に最適な勉強方法を継続して行っていると共に、さらなるレベルアップのために、自分にとってはチャレンジになるようなレベルのものを読んだり、聞いたりもしています。

4. ワークショップで学んで役に立っていること

毎日少しずつでも良いから継続することが大切、ということです。ワークショップ中は、この事柄を先生方が常に言ってくださっていました。私にとって、一番壁になっていたのが、この「少しずつでも良いから継続」、という部分でした。初めのうちは、毎日書くと言っていた日記も、一週間分を一日で書くほど継続力がありませんでした。しかし、2年間このように教えて頂き、また実践してきたことにより、今は、毎日の継続がどれだけ大切で、逆に何も英語に触れなかった一日分を取り戻すのがどれだけ大変か、わかるようになりました。

そのため、継続の大切さを感じることができたこと、そして現在もそれを実行できていることはワークショップで学んだ多くの事柄の中でも、最も大きな財産です。

「自分に合った学習法」を自分で試行錯誤しながら見つけていくという姿勢が身についたことがよくわかる。「計画を立てる→実行する→振り返る→学習方法を修正する」という自律的な学習者としての資質を身につけたと言っていいと思われる。また自律的な学習者に至るまでには、「自律のための他律」としての役割を持つ教師の大切さが改めて感じられる記述である。

6 まとめ

自分に合った学習法を見つけ、学習し、振り返り、また学習法を改善する。このようなサイクルを繰り返し、徐々に自律した学習者を作ることがこの英語ワークショップの目標である。学生の様子をモニターしながら今後も工夫を加えていきたい。